



兵庫県環境研究センター

大気環境科

<機関概要>

今回紹介するのは兵庫県神戸市にある兵庫県環境研究センター大気環境科です。昭和43年に公害研究所として発足し、平成14年4月に県立衛生研究所と統合し県立健康環境科学研究センター（須磨庁舎）となりました。平成21年4月に環境部門が分離し、「兵庫県環境研究センター」として（財）ひょうご環境創造協会に移管され、現在に至ります。

<研究体制>

兵庫県環境研究センターの研究体制は、有害化学物質を扱う「安全科学科」、公共用水域や地下水・土壌等をフィールドとする「水質環境科」及び大気汚染やアスベスト、ヒートアイランド対策等に取り組む「大気環境科」の3科体制となっています。大気環境科の職員数は7名で、センター全体では23名の職員がいます。大気環境科は30歳以下が3人と非常に若く、活気に溢れています。社会人博士号の取得を目指し、日々研究を進めています。

<調査研究業務>

大気環境科では以下のとおり幅広い調査研究業務を行っており、広域的あるいは兵庫県特有の課題に取り組むことにより、県の環境行政への貢献や地域環境の保全に努めています。

・大気汚染に関する試験研究（ばい煙発生施設や一般環境等に係る測定調査）・大気中微粒子等の自動車公害及び酸性雨や黄砂等の越境大気汚染問題に関する調査研究・アスベストに関する試験研究・ヒートアイランドに関する調査研究・広域光化学汚染に関する調査研究

そのなかで、重点研究として以下の二つを大阪大学や兵庫医科大学等と共同で行っています。

A. 「広域大気汚染の実態把握ならびに大気汚染物質の動態解明に関する研究」

光化学オキシダントや黄砂、酸性沈着等広域的な大気汚染の実態を把握するために、簡易測定等による実測データや常時監視データを用いた統計解析、気象/大気質モデルを用いた数値解析等を行っています。

B. 「PM_{2.5}汚染の低減のための成分測定と発生源の推定」

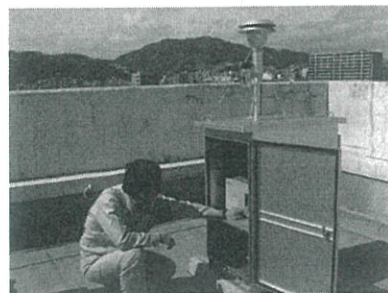
PM_{2.5}の高濃度要因を明らかにすると共に、主要な発生源とその寄与割合を推定するために、県内の複数地点での並行観測や常時監視データの解析、統計解析による主要発生源の推定等を行っています。

<業務全般について>

兵庫県は北は日本海、南は瀬戸内海に面しているため、幅広いフィールドワークを行っており、六甲山や粟鹿山での霧・雨等のサンプリングなど山間部での調査も行っています。また、JICAによるヨーロッパや東アジアからの研修生を受け入れるなど地球環境問題への取り組みも行っています。

<センター旅行>

毎年、科内やセンター全体で旅行に行っています。今年はセンターの有志で、京都の夕日ヶ浦温泉へ「カニ食うど(食べるぞ)！ツアー」(職員企画)に出かけました。土曜日の朝8時にセンターを出発して現地まで片道4時間の行程でしたが、貸切バスの車内は和気あいあいとしたものでした。到着後、あれだけ騒がしかった車内が嘘のように皆無言でカニをむさぼり、温泉につかって日ごろの疲れを癒しました。滞在時間は長くありませんでしたが、非常に楽しい時間でした。来年は1泊2日のバスツアーになる予定?? (大気環境科 研究員 堀江洋佑)



PM_{2.5} サンプリング



六甲山でのサンプリング



JICA研修



カニ食うど(食べるぞ)！ツアー